

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2772403263		
法人名	有限会社 杉の里		
事業所名	グループホーム杉の里		
所在地	枚方市大字杉4607		
自己評価作成日	平成 29年 2月 14日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JizyosyoCd=2772403263-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JizyosyoCd=2772403263-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や意思を尊重し出来る事をして頂けるように声掛け促しをしている。施設敷地が広いので、気候の良い時期には外でおやつ・食事をして頂いたり。家族・地域の方・近隣施設の方を招きバーベキューを行っている。又、家族のいない方など困難事例の方の入居相談を、枚方市・社会福祉協議会等に相談し支援して頂きながら積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の裾野にある開設11年目の2ユニットの事業所です。近隣には障がい者施設以外民家はありますが、季節の折々に木々が芽生え、建物の向かいの壁面にはツタの緑のカーテンが広がり、鳥の鳴き声や小動物等の出現も利用者の楽しみになっています。「共に生きる」いつも笑顔で思いやりを持って接し「できる喜び」や「ゆとりと安らぎ」の持てるその人らしい生活を地域の方々と共に送って頂けるように努めます」の理念を職員は共有し、支援に取り組んでいます。リビングや居室は窓が広くどこからも採光が入り、季節を感じる光景が広がっています。地域ボランティア・職員は、玄関先のプランターに芽キャベツ・ねぎ・イチゴを、裏山の畑ではサツマイモ・エンドウ豆・玉ねぎ・ジャガイモ等の野菜を栽培し、毎日の食卓を潤しています。管理者は「職員がいてこそその管理者」と認識し、人材育成や資格取得に力をいれています。主任や職員は介護の仕事を誇りに思い、丁寧な支援を心がけています。代表も利用者と食事を共にしたり歌を歌ったり、自治会行事には積極的に参加し、互いに思いやりを持った支援を行っている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生きるという理念をもって、認知症その他の障害があっても楽しく暮らせるよう取り組み実践に繋げる努力をしている。	管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念をもとに「私たちはご入居者お一人お一人を尊重し、いつも笑顔で思いやりをもって接します。スタッフと一緒にその方のできる範囲で、食事の支度や掃除などをしていただき、出番や役割を持つことで「できる喜び」を感じ、自立と生きがいに繋げた支援を行います。また、お花や野菜づくり、お買い物やお散歩の機会なども設け、ゆとりと安らぎ、そして笑顔のある「その人らしい生活」を送っていただけるよう努めます。」をホームの目標とし、日々介護実践に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>施設ではなくホーム(在宅サービス)ということで、閉鎖的ではなく、開放的に家族・近隣住民に理解して頂き近隣の催しや、年1回地域の防災訓練に出来るだけ参加している。又、地域施設と三か月に一度の交流会に参加し意見交換をしている。</p>	<p>ホームは住宅等から離れた環境にありますが、利用者・職員は、地域で開催される認知症の理解を深めるために行われている「オレンジカフェ」に参加をしたり、地域の防災訓練に参加をして地域の住民と交流を深めています。地域11カ所の管理者が集まる「氷室校区福祉施設事業所連絡会」が3か月に1回開催されており、管理者は積極的に参加して交流を図っています。</p>	
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域が主催している一人暮らしの老人会などの参加等を行っている。その中で地域参加者に発言することや、出来ることの協力をしている。                      毎月、障害者施設のパン・菓子を、利用者と職員で購入している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回開催しています。会議で出された意見は月1回行っている、職員ミーティングで報告し、話し合いサービスの向上に活かしている。会議録は、職員全員が確認出来るようにしています。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、家族代表、地域包括支援センター職員、副区長、婦人会長、児童福祉委員、民生委員、会長、社長、管理者、職員等の構成となっています。運営状況、利用者の状況、行事報告、ヒヤリハット等議題にしています。また、ホームでの行事や取り組みをDVDにして参加者に説明をするなどしています。運営推進会議録は玄関入口に設置して公表しています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>管理者は、行政との連携を必要に応じて行い、時には出向いて、意見の交換する機会を設けています。又、毎月1回介護相談員に來訪して頂き、意見交換しています。</p>	<p>市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。必要時には、役所に出向き、相談を行っています。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。事例はないが、緊急やむを得ない場合等には、家族に説明し同意を得る為の書式を作成し、そのことについて家族に入居時に説明している。ミーティング時に身体拘束について、研修を行っています。玄関の鍵は、日中開錠しています。</p>	<p>職員は内部研修会で身体拘束廃止や人権について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。管理者は、身体拘束・行動制限「ゼロ」マニュアルを作成しています。門扉や玄関は日中開錠しています。ユニットの扉は外側からはパネルタッチにより自動開錠できるようになっています。建物は山の裾野にあり危険防止のため、内側からはモニター管理で職員が開錠する仕組みとなっています。外出希望者には、見守りと付き添いで対応をしています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員と利用者の良好なサービス及び関係が保たれていると考えている。法令の知識においては、不十分なところもあるが、何が虐待にあたるのかを理解できるよう研修を行い、利用者の状態・介護方法においては、どの職員からも情報提供できるようにしている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居相談、介護相談などに、知りえた情報・知識を必要に応じて情報提供し、内外での研修にて、理解をし実践できるように努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明を行って、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や苦情をサービスに反映させる為、意見箱を玄関と1階・2階リビングに設置、又家族様来訪時などにニーズを探り、意見や苦情には即時に対応している。外部者に関しては、介護相談員及び運営推進委員のメンバーとなっている。	家族が面会に来ると、利用者の日頃の様子を伝えています。玄関入口やユニットリビングに意見箱を用意しています。家族は意見や要望があれば面会時に直接職員に伝えられる関係にあります。また、家族は運営推進会議に参加をして意見や要望を出しています。家族には、2ヵ月毎にホームの広報誌「杉の里だより」で日頃の様子を知らせる等しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回あるミーティング・朝・夕の申送り時に職員が気軽に意見を出せるような雰囲気にし、傾聴し要望に応じる努力をしている。又、管理者は職員に必要な応じ個人面談を実施し職員の意見を聞く機会を設けている。	職員は、業務上のことについて毎月行われている全体ミーティングでその都度意見や提案ができます。調理器具の変更や購入について職員から意見が挙がり、購入した事例があります。管理者は職員それぞれのライフワークや希望に配慮した勤務表を作成する等して働きやすい環境づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、個人に応じた条件を提供している。又、やりがいをもって働けるよう適任職を心掛けている。		
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修案内を事業所として奨めている。法人内自己評価表をもちいて取り組んでいる。職員全員に認知症を理解を深める為、認知症サポーター養成講座を受講できるよう取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年枚方市グループホーム連絡協議会が発足され、加入し、グループ活動への協力をさせて頂き、他のグループホームと連携・意見交換をさせて頂いている。又、オレンジカフェに月1回利用者と参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時には、出来る限りの情報収集を行い、ご本人・家族とのコミュニケーションを出来る限り多く取りそれぞれの意見を踏まえてケアに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に関しては、特に時間をかけて、ご家族・ご本人と話し合いを設けている。要望に対する実践の経緯の報告をこまめに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を十分に行い、その方の状況・必要に応じて、他の介護事業所の提案、紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事をしたり、洗濯物や食事の準備後片付けの手伝いをして頂いたりするなかで良好な関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の絆を大切に考え、出来る限りの来訪と協力をお願いしている。家族のない利用者に対し、職員それぞれが家族の一人となれるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や電話、訪問等を歓迎している。利用者の馴染みの場所や親しい方との関係が途切れないよう支援しています。時には、代筆支援等行っています。	利用者は、入居前に利用していた近隣にある馴染みの美容院や医療機関に出かけています。家族と自宅に外泊をしたり墓参りに出かける利用者もいます。職員は、はがきや年賀状の代行をしたりして、馴染みの方や場所との関係が途切れることがないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と出来る交流を見守るだけでなく、時にはスタッフが中に入り、グループワークやレクレーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も電話をかけたリ、訪問することもあり、その後の経緯に関心をもって配慮している。又、近隣に来られた際には、ホームに立ち寄って下さる家族様もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご本人の意向を伺うと共に、ケース記録を職員が聞き取った事や、その日気付いた事を記入できるように改良し、共通認識のもと支援するよう努力している。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思いや意向を把握し、介護計画に活かしています。入居後は、サービス実施状況を丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。管理者・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう、早出・日勤・遅出・夜勤帯に職員が気づいた利用者一人ひとりの声や表情をケース記録に丁寧に記載し把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りを行い、趣味や経験したことなどを把握して、ホームの年間行事や日々のレクリエーションの提供など、出来る範囲で支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動やバイタルサイン・全身状態のチェックを通して心身の状態を把握したり、申送り・連絡ノートやミーティングでの情報を活かして一人ひとりの現状把握に努めている。不安があれば原因解明に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回ケースカンファレンスを開催し、職員全員が情報を周知・共有し、家族とは面会時や電話、医師や看護師とは受診・往診時に連携を取り、計画作成している</p>	<p>介護計画は原則6カ月に1回、定期的に見直しを行っています。3カ月に1回モニタリングを実施しています。ケースカンファレンスは毎月実施して介護計画の見直しに繋げています。必要時には都度見直しを行っています。サービス担当者会議には利用者・家族の参加もあります。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>現状に即した介護計画の作成に努め、職員・利用者・家族・その他からの情報に応じて見直し、実践している。H26年記録用紙の変更に伴い、職員全員が計画書をチェックし実践した事を日々記録するようになっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>デイケアサービスや訪問診療、訪問看護など、心身状態の変化や状況、必要に応じて柔軟に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のお祭りやボランティア、有料サービスなど、本人の希望も考慮し必要に応じて支援している。月1回近隣の出張エステを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診に加え、本人や家族の希望や状態により、家族対応・ホーム対応を行い、いずれも連携・信頼関係の構築に努めている。	職員は、利用者がかかりつけ医師や家族の希望する医療機関に受診できるよう支援しています。家族の付き添いが基本ですが、困難な場合は職員が付き添いで受診しています。月2回内科の往診があり、歯科は週1回の往診があります。利用者の主治医や協力医療機関による緊急時対応や24時間の連携体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問診療時や、個人への訪問看護時に、医師や看護師に報告・相談し、その都度必要に応じて医師・看護師に判断を仰ぐことが出来る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院入院時や、それ以外の入院時においても、出来る限り面会し、情報提供を行い、ケースワーカーや看護師とは、常に情報を共有し入退院の連携図っている。又、認知症における看護師の苦勞を理解し、良好な関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、定期的に話し合いを行い緊急時も含めて意向を確認し、ホームで出来る事を十分に説明したうえで方針を共有し対応している。 職員とは、情報を共有し、又、相互の情報交換を常時行っている。	「重度化した場合における対応の指針」について入居時に説明を行い、利用者、家族の同意を得ています。利用者が重度化した場合、管理者は、家族、医師、職員などと話し合っ方針を決めています。利用者・家族の希望でできる限りの支援を行っています。職員は、看取りの経験もあり、管理者は、訪問看護師による「看取り研修」を行ったり、マニュアルを配付したりして支援につなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル以外にも、研修等で取得した技術を活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する家屋がないため、緊急時の地域協力は、時間的に望めないが、近隣に住む職員・消防・救急隊の協力体制を築くようにし、地域の消防訓練に職員を参加するようにしている。又、災害用の食糧・水等を数日分備蓄している。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、初期消火、避難誘導、消火器の使い方の訓練をしています。消防署の指導によりスタッフロッカー前のカーテンを防災カーテンに変えているところです。備蓄は水分や米等を1階の倉庫に保管しています。災害発生時マニュアルはありますが、「火災・地震・台風・水害」ひとつずつに対してマニュアルの見直しを検討中です。	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室に鍵がかかるようになっている。プライバシーを損ねないように、訪室時ドアをノックし、声掛け等の配慮を行い、排泄・入浴時の声掛け誘導にも配慮している。プライバシー保護マニュアルを作成し、研修を実施し、職員は入職時に制約書を交わし、退職時にも秘密保持の再認識を促しています。	利用者の尊厳を守りプライバシーを護るために信頼関係を構築し、日々利用者に安心感を持ってもらえるよう努めています。プライバシー保護宣言を玄関に掲げており、マニュアルを作成し、研修を行っています。特にコミュニケーションの取り方に留意しています。排泄や入浴時の誘導はさりげなく、衣服の選択なども押し付けにならないよう気をつけています。利用者は自室を施錠することもできますが、安全のために廊下側から解錠する仕組みもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に話を聞いたり、訴え等を傾聴し、日常生活から推測したりして、自己決定できる環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動や、掃除・調理等のお手伝いをその場の状態や希望に応じて押し付けではなく、個人のペースや、状況に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意思がない限り、十分とは言えないが出来る限り、それぞれ個人の好みの服装をして頂いたり、整容・化粧を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一の食事を提供している為、好き嫌いやアレルギーに配慮し、利用者の希望や行事食などをメニューに取り入れ、箸・コップ・茶碗は個々に準備し、それぞれが自分のペースで楽しめるように支援し職員も同席して同じものを食しています。	食事はホームのキッチンで調理しています。昼食、夕食は食材会社の献立から選んでいますが、利用者もできるところで食事づくりに参加しています。食器はコップ、茶碗、箸など自宅から持参したのを使っています。職員も同じテーブルで同じ食事をし、和やかな食事風景です。身体の状態に合わせてアレルギー食、食べやすい刻み食など工夫しています。行事食も献立に取り入れているほか、月一回はおやつレクとして、職員とともに利用者自身でパンケーキなどを焼き、楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分量の計測を行い、毎月1度の体重測定を実施し、ケアに活かしている。食事・水分量が少ないなど場合によっては栄養補助食品の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、週1回の訪問歯科の先生からの指導を受けケアに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、日中はトイレ誘導を心がけた支援を行っています。意思表示が出来ない方には、その日の水分量を確認し、一人ひとりのペースで排泄を促し、使い捨ての布を準備し、排泄の失敗時に利用者が不快感を持たないように配慮しています。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援に活かしています。ほぼ自立に近い方も必ず確認し、意志表示の困難な利用者にはタイミングを見計らってさりげなく誘導するなどしています。入居して元気になる、自立への意欲が高まりオムツからリハビリパンツに改善された事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量、服薬影響時に配慮し予防に努めている。又、医師に相談・指示を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で行い、入浴日を決めていますが、希望があれば随時対応しています。足浴を清潔保持と血行促進のために毎日行っています。入浴拒否をされる方にも、本人の気持ちを尊重した声掛けを行い、週2回は入浴日を保てるように心がけています。	利用者は基本的に週2回ないし3回の入浴を楽しんでいます。入浴日を決めていますが、利用者の意向により時間変更は可能です。入浴を好まない利用者には時間を変えたり言葉のかけ方を変えたりして、入浴を促しています。季節によりゆず湯、しょうぶ湯などもしていますが、アレルギーの方も注意しながら実施しています。清潔保持のために足浴、シャワー浴なども随時行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	夜間の睡眠の妨げにならないよう に、本人の状態・状況を考慮し、 日中、休息・昼寝を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	全職員が、薬の説明書を閲覧出 来るようにし、職員からの申し 送り、申送りノート等で情報・ 状況を聞き、医師へ情報提供し 、安全な服薬が出来るよう支 援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	一律ではなく、個別の役割や楽 しみ事を探り、楽しく暮らして 頂けるように声掛け促し努力 している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している	ホームの立地状況や、利用者の 重度化・家族状況に伴い外出が 難しくなっています。花見や紅葉 等の外出計画を立て、数人に分 けて外出するなど、利用者全員 が外出していただけるよう出来 る限りの支援を行っています。 又、家族との外出をして頂ける 様支援しています。	市街地から離れているので外出 には工夫しています。天気の良 い日には利用者は庭に出て草花 の世話をしたり、外気浴をしま しながらあたりの景色を眺めて 季節の移り変わりを体感してい ます。裏山のホームの畑に行っ たり、坂道を登って散歩をする 人もあります。買い物に出かけ る人もいます。季節により、桜 、コスモス、紅葉など外出の計 画を立て、少人数のグループで 遠出を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて買い物・受診時の支払いをして頂いている。財布やお金がなくなった等の認知症からの訴えはあるが、職員が誠実に対応している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話・手紙は常時対応出来るようにしている。利用者によっては、職員が電話をつないでから、利用者に渡すようにしている。		
52	19	<b>○居心地のよい共有空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、飾り付けをしたり利用者の作品も飾ったりしている。リビングの窓やベランダからは四季折々の自然の風景が楽しめます。リビングに大きな鏡を設置し、台所・事務所からの死角をなくす工夫をし、トイレ・浴室の場所、使用方法を分かりやすく表示しています。	リビングの大きなドアから採光が入り明るく、空調管理も適切です。キッチンリビングの右奥に配置され、広いリビングが死角にならないよう壁面に大きめのミラーを設置しています。食堂兼用のリビングには利用者と職員の手作りで季節を彩る貼り絵作品やぬり絵、行事での楽しい写真等を飾り、利用者の生活空間を愛着あるものにする工夫をしています。また、リビングには食卓のほかソファや大型テレビがあり、利用者は編み物をしたり洗濯物をたたんだりそれぞれゆったりと過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたい時は居室で、談話していただく時は、リビングに出て来られソファなどを使用し利用者同士や職員と談話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、エアコン・クローゼット・洗面台を備えています。ベット・筆筒等は出来るだけ、馴染みの物を持ってきていただける様に家族にお願いしている。家具の配置もその方の動線を配慮しています。	居室にはエアコン、クローゼット、洗面台を備えています。大きな窓からは季節の移り変わりを感じる光景が広がっています。利用者は馴染みの家具や仏壇、テレビなどを持ち込み、写真や人形、手作りの作品などを飾り、思い思いに使っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに加え、居室を分かりやすく表示、出来る事への声掛け促しを行っている。		